

令和3年度相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会

もくじ

- P 1
事業評価及び公開事業報告会の方法
- P 2
報告事業一覧（タイムスケジュール）
- P 3
自己評価指標等の一覧
- P 5
各事業のふりかえりシート

日時 令和3年7月3日（土）午前9時30分～

会場 けやき会館2階 大研修室

事業評価及び公開事業報告会の方法

1 事業報告会の対象となる事業

協働事業提案制度を活用しての事業実施は最大3年度まで可能で、令和2年度は7事業が行われました。このうち、今回の事業報告会で成果等を発表するのは次に該当する事業です。

令和2年度をもって、同制度を活用しての実施期間を終了したもの（3事業）
令和3年度が最終年度となるもの（1事業）

令和2年度が1・2年目で次年度継続を希望する事業の進捗等については、10月頃開催予定の中間ヒアリングで報告します。

2 報告書（ふりかえりシート）の作成

事業報告会に先立って、協働事業の過程や成果を自己評価する報告書（ふりかえりシート）を、実施団体及び事業担当課双方の合意により作成していただきました。

3 評価の数値化等

ふりかえりシートには、事業の概要のほか、事業の達成度などを記号化・数値化して示してあります。

自己評価指標

「パートナーシップの原則」、「取り組みにあたっての関係性のふりかえり」、「事業の妥当性と効果」、「協働したことの効果」の4区分について、A（80%以上できた）、B（60%以上できた）、C（十分にできなかった）の3段階で評価を行いました。

自己評価点

A～Cで評価した4区分をさらに19に細分化し、a・b・c・dの4段階でチェックのうえ、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え、76点満点で点数化しました。

4 報告会の方法

1事業あたりの事業結果報告は10分間です。それを受けて、審査会による質疑応答（8分程度）を行います。

令和3年度 公開事業報告会スケジュール

日時 令和3年7月3日(土)
午前9時30分～午前11時00分
会場 けやき会館2階 大研修室

進め方

団体及び事業担当課は、協議の上「ふりかえりシート」を事前に作成してください。
当日は、原則としてパワーポイントを使用し、成果報告を行ってください。(10分)
報告を受け、審査員が質問や助言を行います。(8分)

時間	区分	内容	事業概要	団体名	事業担当課	最終年度
9:30	開会					
9:30	行政	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業	高尾山、石老山からの相模湖、藤野方面へのハイカー誘客のため、ローマ字標記を併記した地域材を利用した道標の整備、ハイキングガイドの養成、ハイキングイベントを開催する。	相模湖商工会	観光・シティプロモーション課	昨年度
9:50	市民	市民講座による生涯学習の推進事業	新たな生涯学習の仕組みづくりの構築に向け、市民による市民のための市民講座の長期講座を行うとともに、長期講座修了者のサークル化を推進し、生涯にわたって学び続けることができる体制を整える。	市民講座 まなびのライブ塾	生涯学習センター	昨年度
10:10	休憩(10分)					
10:20	市民	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業	現在、藤野地区で行っている里山体験ツアーを津久井地域の観光資源を活用し、津久井全域に広げることで、津久井地域の活性化及び観光を通じたさまざまな交流促進を図る。	一般社団法人 藤野観光協会	緑区役所区政策課	昨年度
10:40	市民	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)	成年となることで契約に係る権利と責任が大きく変化することを踏まえ、高校生やその保護者に対して、金融教育や法的に大人になることについての講義、高校生が経済的理由で進学をあきらめないための奨学金等支援制度の適正な活用方法の説明や個別相談を行うことで、消費者被害の未然防止や将来の健全な市民の育成をしていく事業。	神奈川県ファイナンス シャルプランナーズ 協同組合	消費生活総合センター こども・若者支援課	今年度
11:00	閉会					

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

9:30 終了	事業の名称	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業																			
	事業実施団体	相模湖商工会																			
	事業担当課	観光・シティプロモーション課																			
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																					
自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																					
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性					事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A					B					A					
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	4	4	4	4	74

9:50 終了	事業の名称	市民講座による生涯学習の推進事業																			
	事業実施団体	市民講座 まなびのライブ塾																			
	事業担当課	生涯学習センター																			
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																					
自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																					
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性					事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A					A					A					
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

10:10 終了	事業の名称	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業																			
	事業実施団体	一般社団法人 藤野観光協会																			
	事業担当課	緑区役所区政策課																			
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																					
自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																					
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性					事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A					A					A					
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

10:45 今年度最終	事業の名称	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)																			
	事業実施団体	神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合																			
	事業担当課	消費生活総合センター こども・若者支援課																			
自己評価指標(A:80%以上できた B:60%以上できた C:十分にできなかった)																					
自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																					
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性					事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A					B					A					
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
自己評価点	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	72

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

事業の名称	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業								
団体の名称	相模湖商工会								
事業担当課	観光・シティプロモーション課								
事業の概要	高尾山、石老山からの相模湖、藤野方面へのハイカー誘客のため、ローマ字標記を併記した地域材を利用した道標の整備、ハイキングガイドの養成、ハイキングイベントを開催する。								
具体的な取組みの状況	<p>協働事業を実施するにあたり、地域の団体から構成される観光振興特別委員会を設置した。委員会で協働事業の方向性や必要な意思決定をおこなった。</p> <p>(1) ローマ字標記を併記した地域材を利用した道標の整備 日本語と外国語を併記し分かりやすく、視認性を確保した。材料にあっては親しみやすさと温かみをデザインに反映し、かつ耐久性に優れた地域産材を使用した道標、看板を作成した。 【平成30年度】JR相模湖駅から湖畔の相模湖公園までに全体的な地図案内板1基、湖畔までの案内板8基を設置した。 【令和元年度】石老山とその周辺地域を対象とし、フィールドワークにより設置場所を検討した。台風19号による大規模な土砂崩れでハイキングコースは壊滅的な状態に陥り、道標の整備は不可能となった。観光客からの問い合わせが多かった国道沿いの石老山入口バス停から、相模湖病院脇のハイキングコース入り口までに道標3基の設置、既存看板の修繕及び塗り替え工事をおこなった。 【令和2年度】千木良地域の新たなハイキングコースの設定を目的に「千木良・弁天橋經由相模湖公園」コースに10基の案内板を設置した。設置箇所については委員によるフィールドワークにより決定した。千木良・弁天橋ハイキングコースは、高尾山からのハイカー誘客にあたって相模原側のハイキングコースの一つとして長年整備が求められていたコースで、本協働事業を機に着手することとした。</p> <p>(2) ハイキングガイド養成講座 【平成30年度】合計3回の講座を開催した。参加者は委員会の委員、地域活動団体メンバー、公募の学生等。</p> <p>(3) ハイキングイベントの開催 令和元年度は東日本台風の影響、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延によりハイキングイベントの開催は中止となった。</p> <p>(4) ハイキングマップの作製 令和2年度のハイキングイベント中止にともない、新たなソフト事業として、高尾山～城山～弁天橋～相模湖に至る新たなハイキングコースマップを2000部作成し、JR相模湖駅、高尾駅、相模湖観光協会案内所、相模湖総合事務所に配架した。</p>								
役割分担	<p>実施団体の主な役割 相模湖商工会 事業の企画及び実施、関係機関及び各団体等との調整、事業の周知、情報の収集、事業費の執行</p> <p>市の主な役割 相模原市シティプロモーション課 事業の企画及び実施に向けた支援、関係機関及び各団体との調整、事業の周知、情報の収集、事業費の負担</p>								
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点 委員によるハイカー目線でのフィールドワークに基づいて、道標や案内板の設置場所を検討したため、視認性や分かりやすさに関しては、実際のハイキング客にとって好感触を得る結果となった。(観光協会によるヒアリング結果から)また、ハイキングコースマップを作製し、登山客が手に取れるように駅など主要な場所に配架した。</p> <p>行政の効率化につながった点 地域をよく知る地元住民とフィールドワークを重ねることで、迷いやすい箇所や老朽化で危険な案内板を確認し、効率よく設置することができた。また、委員会に出席する様々な団体と意見交換を通じて地域観光の実情を知る機会となった。</p>								
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <p>令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったハイキングイベントや主要ハイキングコースに設置した案内板、道標の維持管理については、引き続き実施に向けて取り組む。また整備中の「千木良・弁天橋コース」について、ハイキングコースに含む相模ダムの改修工事の見学と併せて新たな観光資源として活用していく。本協働事業をきっかけに地域の様々な団体につながりができたことにより、観光協会や地元の相模湖コンシェルジュ、まちづくり会議、商工会等が連携し、地域の魅力発信につながるイベントを企画していく。</p>								
3年間の総事業費と年度ごと内訳	9,312,862	円	<table border="1"> <tr> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>3,522,308円</td> <td>2,188,000円</td> <td>3,602,554円</td> </tr> </table>	H30年度	R元年度	R2年度	3,522,308円	2,188,000円	3,602,554円
H30年度	R元年度	R2年度							
3,522,308円	2,188,000円	3,602,554円							
上記のうち市負担金	8,386,110	円	<table border="1"> <tr> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>3,172,000円</td> <td>1,987,110円</td> <td>3,227,000円</td> </tr> </table>	H30年度	R元年度	R2年度	3,172,000円	1,987,110円	3,227,000円
H30年度	R元年度	R2年度							
3,172,000円	1,987,110円	3,227,000円							

事業の名称	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業
-------	----------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思いましたか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだと思いましたか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いましたか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の影響で予定通りに実施できないこともあったが、今後もアウトドア需要は継続すると期待しており、継続して誘致に取り組む。	自己評価			
		B			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		は い			い え
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	観光振興特別委員会を設置し、協働に取り組んだ結果、これまで関わりがなかった団体を含む様々な団体が丸となり事業に取り組むことができた。	A			

E：20 協働のポイント - 1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<p>弁天橋を経由するコースはダムサイトをコースに含みます。大規模なダム改修工事の際は工事現場の見学が可能になる計画になっており、新たな観光資源として期待できます。</p>	<p>委員会を通じてこれまで関わりがなかった団体や地域で活動されている方々と意見交換し、ともにフィールドワークで課題を共通認識できたことは良い機会であった。</p>

F：21 協働のポイント - 2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<p>特にありません。</p>	<p>特になし</p>

G：22 協働のポイント - 3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<p>相模原市の振興のためこんなことがやってみたいと思っている各団体は、遠慮することなく行政当局へ相談するべきです。協働して事業を組み立てることで新しい発見があると思います。</p>	<p>行政と団体が連携することで今ある課題を解決するだけに留まらず、様々なアイデアが生まれ、地域が主体的に取り組むきっかけとなり、より大きな効果が出ると良いと考える。</p>

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<p>本事業に取り組むことになったのは商業観光課からの「こんなことできないかな」という問いかけでした。本来なら観光協会が取り組む事業と思いましたが、あえて手を挙げてみました。お陰様で観光協会との協働事業も今後発展しそうです。</p>	<p>様々な立場や視点から課題を捉え、地域の観光振興に取り組むことは行政だけでは成し得ないと考えており、今後も地域と協力し取り組んでいく。また、協働をきっかけに地域団体が連携し、地域の活性化につながることを期待している。</p>

I: 24 取組の様子(写真とコメント)

写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

平成30年度

相模湖畔への道標の設置風景と駅前に設置した全体案内図

写真添付欄



コメント記載欄

令和元年度

石老山登山口へ誘導する道標と観光協会が設置した巨大看板の修繕をおこなった。

写真添付欄



コメント記載欄

令和2年度

フィールドワークの様子と既存案内板

当コースは東海自然歩道にも組み込まれており神奈川県が設置した既存案内板も存在するため、既存看板との共存も検討しました。

写真添付欄



コメント記載欄

令和2年度

公衆トイレの壁面利用

コース途中に地元自治会が管理する公衆トイレがあります。壁面を利用し案内板を設置し、トイレの看板と壁面を修繕しました。

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

事業の名称	市民講座による生涯学習の推進事業			
団体の名称	市民講座 まなびのライブ塾			
事業担当課	生涯学習センター			
事業の概要	新たな生涯学習の仕組みづくりの構築に向け、市民による市民のための市民講座の長期講座を行うとともに、長期講座修了者のサークル化を推進し、生涯にわたって学び続けることができる体制を整える。			
具体的な取組みの状況	<p>市民講座の開催（講座開催地域の拡大・長期講座「まなびのガーデン」の実施）</p> <p>平成30年度 南区・緑区での開催：5講座 長期講座：6講座 令和元年度 南区・緑区での開催：9講座 長期講座：5講座 令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止。ホームページ上で動画による講座を行った。（7講座、YouTube利用）</p> <p>講座修了者のサークル化 講座リストの作成・講師派遣開始 平成30年度 講座リストの作成・配布開始。講師派遣：5件 令和元年度 講師派遣：4件 令和2年度 令和3年度版の作成、講師派遣：3件</p> <p>大学、地域との連携 ユニコムプラザまちづくりモデル事業において「俳句カフェ」を月1回実施（平成30年度～令和2年度） 平成30年度 麻布大学との連携講座実施 平成31年度 博物館・国民生活センターとの連携講座実施</p> <p>生涯学習イベントの開催 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、独自のイベント開催が不可能となった。 ユニコムプラザさがみはらまちづくりフェスタには、平成30年度～令和2年度に参加した。</p>			
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業の企画及び実施に関すること全般（講師の選定・募集事務・PR・会場準備等） 事業経費の負担 ○事業実施団体として必要な情報公開及び説明責任に関すること <p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業の企画及び実施に当たっての助言及び協力 ○広報紙への掲載等事業のPRや周知 ○会場確保 事業経費の負担 ○講座開催に伴う、関係職員等の出席等、事業の実施状況、課題等についての連絡調整に関すること ○市として必要な情報公開及び説明責任に関すること 			
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <p>講座開催地域の拡大により、多くの市民に学習機会を提供できた。また、長期講座の実施や講座修了者のサークル化では、生涯にわたって学ぶという市民の意欲にこたえることができた。公民館等への市民講師の派遣や、地域連携による講座等については、今までにない形で、市民に生涯学習の機会を提案することができたと考えている。</p> <p>行政の効率化につながった点</p> <p>一部署で、これだけ多くの講座を市内各地で実施するのは難しかったと考えられる。また、団体のホームページを活用することでインターネット上での申し込みが可能になったことから、受講者の利便性が高まった。</p>			
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」</p> <p>今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <p>団体の事業として引き続き実施している。行政は、広報紙等への記事掲載や事業の実施に必要となる会場の確保等について、引き続き支援を行っている。</p>			
3年間の総事業費と年度ごと内訳	3,490,122 円	平成30年度 2,064,859円	令和元年度 967,212円	令和2年度 458,051円
上記のうち市負担金	3,027,181 円	平成30年度 1,899,797円	令和元年度 690,812円	令和2年度 410,196円

事業の名称	市民講座による生涯学習の推進事業
-------	------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価 a			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価 a			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思えますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだと思えますか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思えますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価 a			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		a			

E：20 協働のポイント - 1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
広報や会場確保など、団体だけでは難しかったことが可能になり、協働することの効果を感じられました。事業の進め方においても、行政のノウハウを学ぶことができ、団体にとってプラスになりました。	本事業により、「公民館と団体」「大学と団体」といった異なる組織を横断した生涯学習事業に取り組むことができたと考えています。

F：21 協働のポイント - 2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
協働事業の制度について、また応募・協議・プレゼンまでの流れ、そして実施後の取り組みは、会員間で理解度の差があると感じました。その溝を埋めるための話し合いがもう少し必要であったと思います。	協働の目標を達成するために団体に負担をかけてしまった部分はあったように思います。

G：22 協働のポイント - 3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
アイデアを持っている市民は積極的にチャレンジすべき制度と思います。市民の力だけでは難しい事業が実現でき、また行政のノウハウを学ぶことができ、大変勉強になります。	協働により、当初は想定していなかった新しいアイデアが生まれることもあります。そういった部分が協働事業ならではの面白さであり、可能性だと考えています。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
3年間で築いてきた実績、また担当課との信頼関係を今後の事業展開につなげていきたいと思えます。本事業は継続性のあるものなので、担当課と協力しながらこれからも生涯学習の推進に寄与していきたいと思えます。	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、最終年度は計画していた活動がなかなかできない状況でしたが、この3年間で培ったノウハウや他組織との連携をもとに、さらに事業が発展していくことを期待しています。

写真添付欄



ユニコムプラザさがみはら(南区)で開催された「カラーセラピー入門」講座の様子

コメント記載欄

市民講座の開催(講座開催地域の拡大)

本事業により、講座の開催地域が全市域に拡大され、多くの市民の方にご参加いただけるようになった。また、市民への団体の認知度も向上している。

写真添付欄



コメント記載欄

講座リストの作成・講師派遣開始

公民館事業に講師を派遣。事前に事業関係者と講師で打ち合わせを行い、各事業のニーズにあった講座を実施できている。受講者からは好評をいただいております。公民館以外の公共施設や青少年団体からも依頼をいただくようになった。令和3年度版も作成し、すでに活用が始まっている。

写真添付欄



大学連携企画講座「秋の吟行会『いのちの博物』

コメント記載欄

大学、地域との連携

行政が別事業で連携している大学や研究機関と連絡調整を行い、講座を実施した。

写真添付欄



動画配信

コメント記載欄

令和2年10月～動画配信

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面での講座を開催できない状況が続いたことから、10月より、団体ホームページ上でミニ講座の動画配信を開始。

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

事業の名称	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業			
団体の名称	一般社団法人 藤野観光協会			
事業担当課	緑区役所区政策課			
事業の概要	現在、藤野地区で行っている里山体験ツアーを津久井地域の観光資源を活用し、津久井全域に広げることで、津久井地域の活性化及び観光を通じたさまざまな交流促進を図る。			
具体的な取組みの状況	<p>(1) 藤野里山体験ツアーの磨き上げ 平成30年度；ツアー開催50件・参加者総数464名、受入れ家庭14戸 令和元年度；ツアー開催48件・参加者総数521名、受入れ家庭16戸 令和2年度；ツアー開催40件・参加者数449名、受入れ家庭18戸 リピーター、口コミによる参加者の増加からツアー認知度の上昇が窺える。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染状況によって、開催中止期間が約4か月あったが、その他の時期の開催は大変好評であった。</p> <p>(2) 津久井里山体験ツアー運営の仕組み作り 平成30年度；関係団体との協議を経て、津久井里山体験ツアー運営協議会結成 モニターツアー2回開催 令和元年度；専用HP「りとりと」開設・運用、協議会2回開催、モニターツアー2回開催 令和2年度；「りとりと」リニューアル・運用、協議会会員との情報交換 津久井地域における里山体験ツアー関係団体との連携がとれ、お互いに切磋琢磨できるようになった。また、令和2年度末には津久井、相模湖、藤野の共同企画ツアーの開催が検討された。</p> <p>(3) 事業のPR活動 平成30年度；各種イベント出展、セミナー参加、マスコミ対応等 令和元年度；各種イベント出展、セミナー参加、マスコミ対応等</p>			
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藤野里山体験ツアーの企画・運営、受入れ家庭増加のための取組み ○協議会の事務局としての機能（協議会開催、HPの運用、モニターツアーの企画・開催等） ○事業のPR活動（各種イベント等への出展、マスコミ対応等） ○事業経費の負担 <p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○津久井地域里山体験ツアー運営協議会実施会場の確保、関係職員の出席 ○津久井地域各まちづくりセンターに対する事業内容の周知及び協力要請 ○市広報及びHPなどによる里山体験ツアーの広報活動 ○里山体験ツアー受入れ家庭募集への協力 ○事業経費の負担 			
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藤野里山体験ツアーの参加者は都内在住者がほとんどであったが、市内参加者は年々増加し、「市内にこんないい所があったのか」と好評を得ている。 ○里山体験ツアーは交流人口の増加、一定の経済効果などによって一層の地域活性化に貢献している。 ○HP「りとりと」は市民にとってマイクロツーリズムといった新たな観光の情報源となっている。 <p>行政の効率化につながった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域特性を生かした地域資源と体験を効果的に結び付け、交流人口の拡大とともに、緑区基本計画における中山間地域の振興に寄与している。 また、津久井・相模湖地区でも開催するなど、津久井地域全体への波及効果が期待できる。 			
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藤野里山体験ツアーについては、藤野観光協会が得る体験料収入によって自立して運営していくことがほぼ見通せる状況になっている。 ○津久井地域里山体験ツアー運営協議会については、そもそも収入が得られる事業ではないため、事業継続について緑区役所と協議した結果、緑区基本計画推進事業の一環として実質的に継続が可能になった。 			
3年間の総事業費と年度ごと内訳	5,766千円	平成30年度 1,536千円	令和元年度 2,099千円	令和2年度 2,131千円
上記のうち市負担金	4,763千円	平成30年度 1,392千円	令和元年度 1,733千円	令和2年度 1,638千円

事業の名称	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業
-------	------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		は		い	
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		い		え	
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 事業を藤野から津久井地域に拡大することは、協働によらなければ不可能であった。協働によって相互の利点を生かす形で役割分担をし、中山間地域の振興に一石を投じるようになった。また、津久井地域のいくつかの団体が連携できたこと、機能的に動くコーディネーターが得られたことは津久井地域の新たな財産となり、自治力の向上につながった。	自己評価			a
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		は		い	
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		い		え	
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 令和2年度は新型コロナウイルス感染状況によって打合わせ等に制約があったが、全体としては必要に応じて打合せ会をもち、メールなどにより進捗状況を確認するなど、連携はスムーズに行えた。役割分担も明確であり、お互いに自由に意見を述べあい、協働事業を積極的に進めることができた。相互の信頼関係は協働事業を通じて一層緊密なものになったものとする。	自己評価			a
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		は		い	
		い		え	
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思いましたか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができましたか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだと思いましたか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いましたか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 市内外からのツアー参加者増加、HP検索数増加等から、事業は社会的要請にマッチし、目的を達成し、市民からの評価も得られていると考える。特にコーディネーター養成の観点からの経費は適切かつ効果的に使用された。事業は市の観光振興の一つの目玉として今後ともさらに発展していくものと確信している。	自己評価			a

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		は い			い え
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	事業を津久井地域に拡大することは、協働によらなければ不可能であった。相互の利点を生かす形で役割分担をし、中山間地域の振興に一石を投じ、事業終了時に緑区基本計画推進事業に引き継がれたことは大きな成果であった。また、津久井地域の団体が連携できたこと、機能的なコーディネーターが得られたことは津久井地域の新たな財産となり、自治力の向上につながった。	a			

E : 20 協働のポイント - 1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
中山間地域の活性化は市の重点政策の一つであるが、津久井地域里山体験ツアーの展開はその実現のための具体的な取組みである。合併後も何かと旧町の慣習に制約されがちな状況が続く中で、この事業を展開するためには行政と団体との協働は不可欠であった。それが結果的に本事業を緑区の基本計画推進事業につなげることになったと考える。総じて、協働によって新たな可能性が感じられた。	協働による事業実施によって、情報共有とともにお互いが知る地域や団体の繋がりなどの情報を効果的に事業に結び付けることができ、それぞれの役割を生かし合うことができた。

F : 21 協働のポイント - 2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
前述のように津久井地域には合併後も旧町の「独自性」が残っているが、それを取り払って相互の協力関係を築くことは諸課題の解決のために不可欠なことである。本事業を通じて、部分的にそのことが実現できたと考えるが、なお道は遠いと実感した。広い意味での「協働」が更に必要であろう。この観点から新しく津久井青年会議所との連携が実現できたことはさらなる可能性につながるものとする。	津久井地域全体への波及を一つの目標としているが、組織的に広めることが難しい状況であるが、その解決策について津久井地域全体で活動する団体などに協力を頂けるよう、更なる情報提供及び情報共有に努めたい。

G : 22 協働のポイント - 3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市民協働事業新しい公共のあり方を示唆するものであるように思う。行政には行政の利点、民間団体には団体の利点があるが、さまざまな課題解決に取り組む際に、相互の利点を生かす市民協働事業といった手法があることぜひ知っていただき、活用していただきたい。	お互いが対等な立場で、意見交換しながら事業を展開できるので、新しい事業を展開したいときなど、目的達成に向けた議論を積み重ね、お互いの発想を効果的に活用してほしい。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
緑区の基本計画は中山間地域の振興を謳っている。しかし、そのために何をすべきか、何ができるかといった点はなかなか見えてこなかったが、本事業が基本計画推進事業として展開されることになったことは具体的な動きとして高く評価できる。さらに、全市的、全緑区的な視点から中山間地域の振興策を主導していただけたらと思う。そのために私も引き続き全面的に協力していきたい。	協働事業で得た、地域・団体・企業など様々な繋がりが、この事業の支えであると感じているので、引き続き、繋がりを大切にし、幅広い視野と多様な発想で取組が進めば良いと思う。

I : 24 取組の様子(写真とコメント)

写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

第1回津久井里山体験ツアー運営協議会(2019年1月開催)の様子。会員7団体(参加者数12名)、これに津久井地域四観光協会、四まちづくりセンターがオブザーバーとして参加。会場は相模湖総合事務所。この会ではそれぞれの自己紹介の後、事業推進の方向性、作成予定のHPの基本理念等について検討した。

写真添付欄



コメント記載欄

2019年10月に公開された津久井里山体験ツアー運営協議会専用HP「りとりと」のトップページ。「りとりと」とはしばらく都会を離れ(離都)、里の人となる(里人)ことを組み合わせた造語。「りとりと」は津久井地域で開催される里山体験ツアーの意義、受入れ家庭の紹介、開催される全ツアーの概要などを掲載している。このサイトから里山体験ツアーを申し込む方が徐々に増えつつある。

写真添付欄



コメント記載欄

2021年4月に開催された藤野里山体験ツアー。この日は東京都大田区の学童クラブの子どもたちが藍染め、タケノコ掘り、釜で炊くご飯を使ってのおにぎり作りなどに挑戦。久しぶりの外出に子どもたちは大喜び、大地を駆け回って里山を満喫した。自分のセンスで染め上げたハンカチやTシャツは里山体験の素晴らしい記念品になった。

写真添付欄



コメント記載欄

津久井・相模湖、藤野地域の各団体が共同して企画した虫ムシ探検隊ツアー。昆虫カメラマンのお話しに子どもたちは興味津々。豊かな里山に寄り添って生きる昆虫たちも子どもたちを歓迎するかのよう数多く迎えてくれた。このツアーは津久井三地域が共同して開催できた点でも意味のあることであった。今後も年に3回程度継続して実施していく予定である。

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

事業の名称	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)								
団体の名称	神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合								
事業担当課	消費生活総合センター こども・若者支援課								
事業の概要	成年となることで契約に係る権利と責任が大きく変化することを踏まえ、高校生やその保護者に対して、金融教育や法的に大人になることについての講義、高校生が経済的理由で進学をあきらめないための奨学金等支援制度の適正な活用方法の説明や個別相談を行うことで、消費者被害の未然防止や将来の健全な市民の育成をしていく事業。								
具体的な取組みの状況	<p>1、高校での授業開催</p> <p>令和元年(2019年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原青陵高校(3年) クラス授業方式8枠2コマ(延べ約240名) 【テーマ】高校生のためのライフプランワークショップ 奨学金の借り方、返しかた 城山高校(3年) クラス別授業方式8枠(延べ約250名) 【テーマ】高校生のためのライフプラン 城山高校(3年) 全体集会方式1枠(延べ約250名) 【テーマ】クレジットカードとキャッシュレス <p>令和2年(2020年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 城山高校 クラス別授業方式8枠(延べ約200名) 【テーマ】高校生のためのライフプラン <p>令和3年(2021年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座の周知及び募集を目的とした動画(3本)を作成及び、掲載(YouTube) 今年の授業に備えてのレジュメの見直し 								
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業・講座の企画と運営(講師とサポート要員の確保と講座内容の確認) 県や市のホームページ掲載依頼や当団体のホームページ掲載 youtubeを活用したPR活動 事業経費の負担 <p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長会などへの出席による出前授業のPRと募集 関係期間や団体と調整 事業担当者などの出席 事業経費の負担 								
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年4月より18歳の高校生が法的に大人になることに備えて心構えを勉強する機会の提供になった。 文部科学省も「高校生のためのライフプラン」を授業に取り上げるよう奨励しているが、ライフプランに詳しいFPとして先生に替わって授業を行い、高校生にとってのライフプランの必要性と意義をワークを通じて体験してもらった。 <p>行政の効率化に対応できた点</p> <p>子どもの貧困などの社会問題、令和4年4月施行の成年年齢引き下げなど、行政として本人(学生)に自らの人生設計について見直す「きっかけ」作りとして、県ファイナンシャルプランナーズ協同組合に講師として、専門的な知識を活かしてもらうことで、行政職員では対応しきれないニーズに対応可能となり、短期間での効率的な取り組みができた。</p>								
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。</p> <p>この事業の目的である「成年になる事による契約に係る権利と責任」「高校生や保護者に対しての金銭教育」「高校生のライフプラン」「経済的な理由での理由で進学をあきらめない」の出前授業・公開セミナーは社会的に意義あるものである。また当団体の得意分野でもあるので今後も継続をしたい。 資金的にはより厳しくなるので団体が出来る範囲での事業になる。</p>								
3年間の総事業費と年度ごと内訳	837,240	円	<table border="1"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>411,000円</td> <td>102,240円</td> <td>324,000円</td> </tr> </table>	令和元年度	令和2年度	令和3年度	411,000円	102,240円	324,000円
令和元年度	令和2年度	令和3年度							
411,000円	102,240円	324,000円							
上記のうち市負担金	502,040	円	<table border="1"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>242,000円</td> <td>61,040円</td> <td>199,000円</td> </tr> </table>	令和元年度	令和2年度	令和3年度	242,000円	61,040円	199,000円
令和元年度	令和2年度	令和3年度							
242,000円	61,040円	199,000円							

事業の名称	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)
-------	--

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働事業としては、市内の県立高校を対象としていたため、「広く市民に対して」という部分では、今後の課題が残る。 市外に向けて周知を図ることを目的とした動画の掲載についても、検索のし易さなどを工夫して周知を図っていきたい。	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思えますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだと思えますか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思えますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、オンラインによる受講も周知してきたが、望む成果には至らなかったと感じている。	自己評価			
		B			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		は い			い え
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			

E：20 協働のポイント - 1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市の職員の方も我々も協働事業の取り組みに慣れてきて事業がスムーズに進められるようになってきた。	様々なサービスを要求される行政として、組織内部だけの知識では限界があるため、専門的な知識は専門の組織・団体などと積極的に協働し、取り入れていくべきであると感じた。

F：21 協働のポイント - 2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
出前授業の募集は市サイドが行ったが、当団体ももっと積極的にかかわるべきであったのではないかと。	講座の周知方法として、「相模原地区県立学校長会議」にて行ってきたが、私立校への周知方法など改善すべきと考える。 また、現状として各学校における「金融教育」への対応度合も調査が必要だったと感じる。

G：22 協働のポイント - 3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
	以前より改善されていると思いますが、まだまだ行政は「横のつながり」に対して弱く感じます。 専門分野は専門家に任せるのが一番だと思います。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
3年経過後も校長会などのかかわりあいを援助して欲しい。また校長会以外に事業をPRできる手段があれば教えて欲しい。	協働事業の満了につき、協働形態は変わるが、市としての可能な限りのサポートを行いたいと考えている。

I : 24 取組の様子(写真とコメント)

写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄

コメント記載欄



令和元年 県立城山高校での授業 「高校生のためのライフプラン」

写真添付欄

コメント記載欄



令和元年10月 県立城山高校での合同授業
「3年生向けクレジットカード、キャッシュレス教育」

写真添付欄

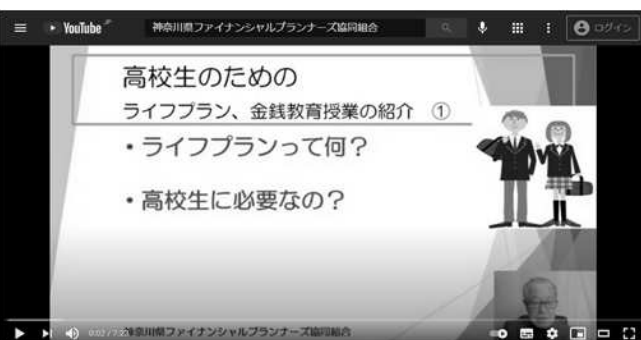
コメント記載欄



令和元年4月 県立青陵高校での授業「奨学金の借り方、返し方」

写真添付欄

コメント記載欄



動画閲覧サイト「YouTube」掲載動画